

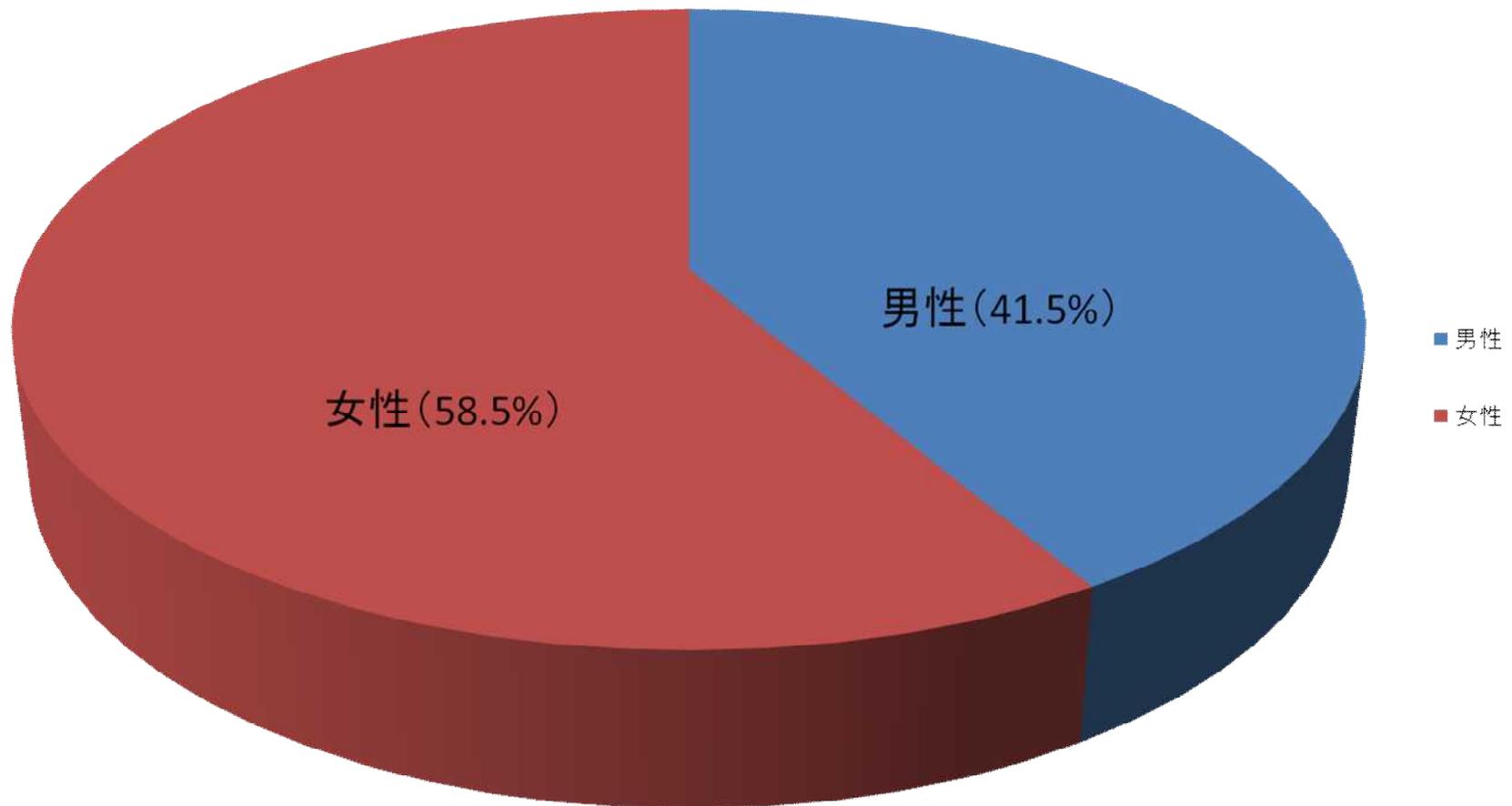
お口のリスク統計

虫歯編

2007.1.1 ~ 2007.12.31初診分

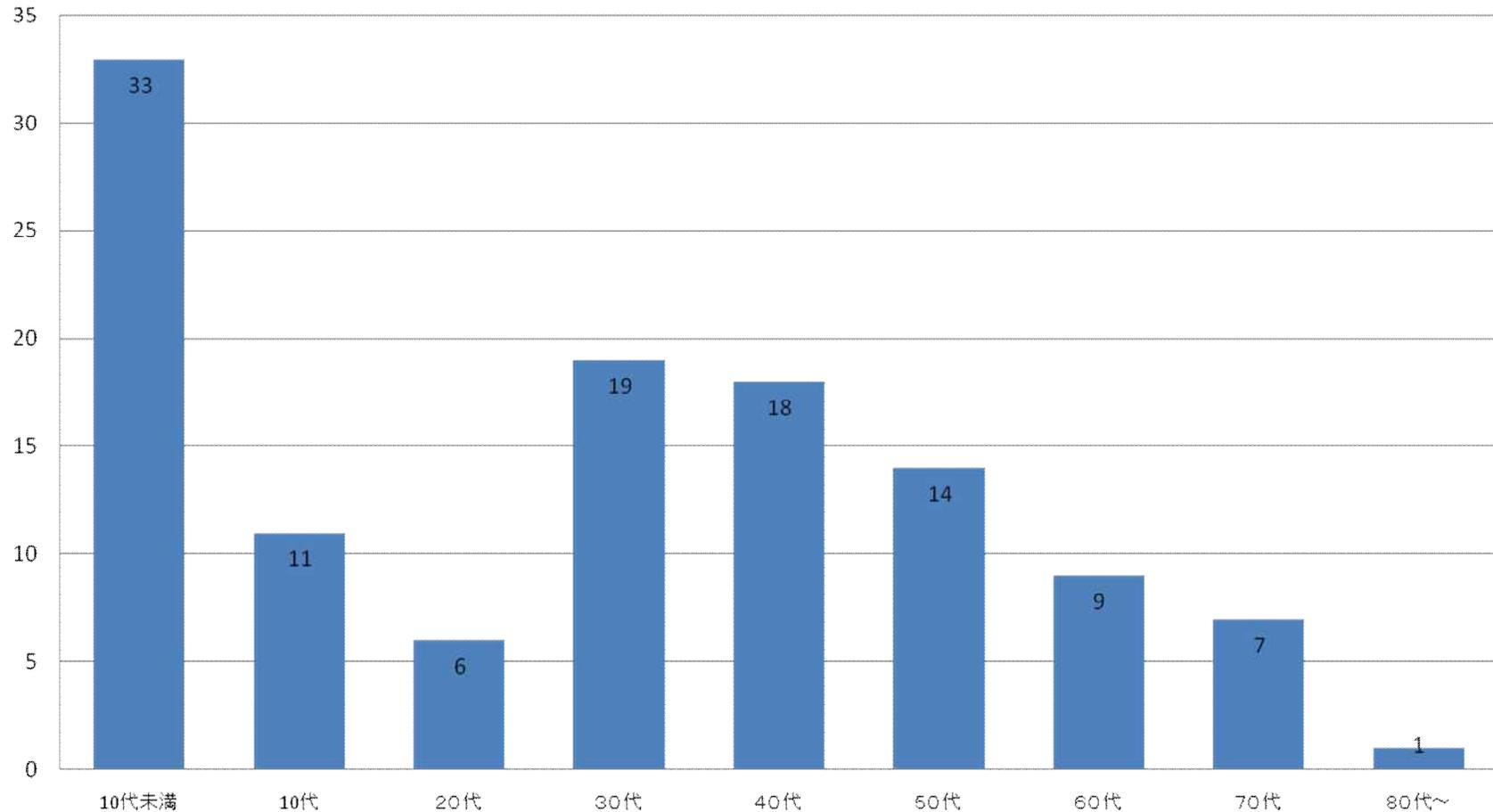
みなさんに行って頂いている唾液検査の結果をもとに、
当院患者様の虫歯の現状をまとめました。

男女の比率



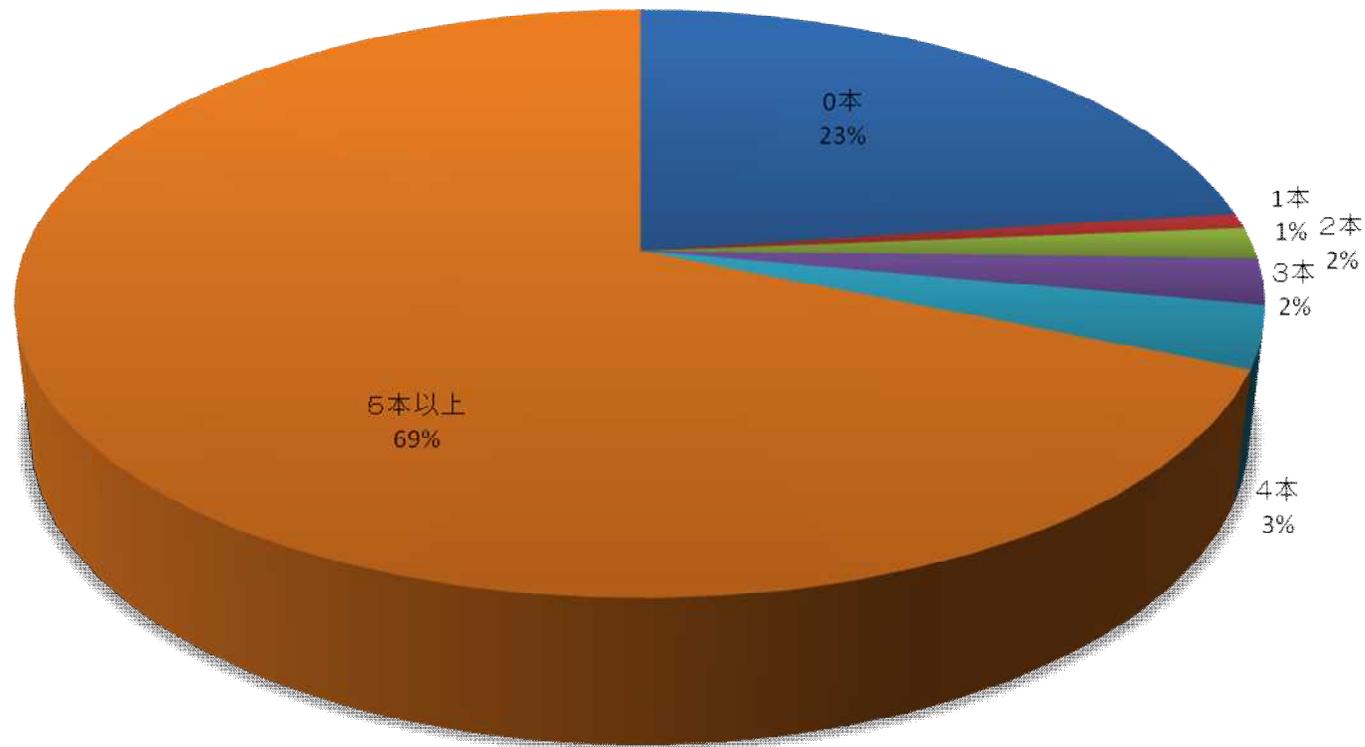
唾液検査を受けている方は、現状では女性の方が少し多いようです。

年代別の人数



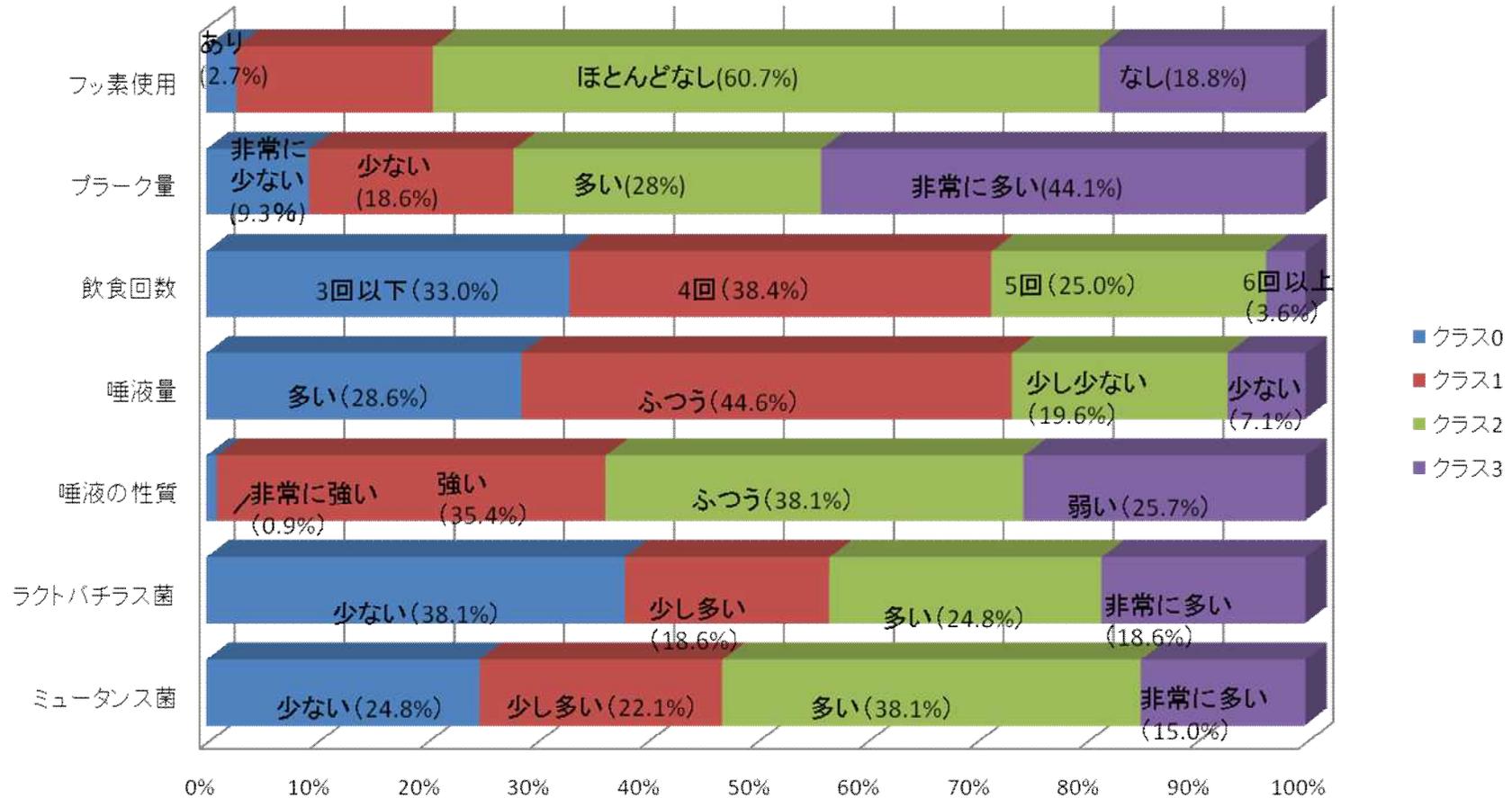
唾液検査を受けているのは、圧倒的に10代未満のお子さんが多いようです。虫歯のなりやすさを調べるのは早ければ早いほどいいのですが、一生涯を通して虫歯はできますので、一度は唾液検査によってお口の詳しい検査をすることをおすすめします。

虫歯になった歯の本数



虫歯になった、また現在虫歯である歯の本数は5本以上の方がほとんどです。
しかし、素晴らしいことに20歳前後で虫歯ゼロの方も何人かいらっしゃいます!!
みなさんもこれ以上虫歯を増やさないよう予防していきましょう。

虫歯リスクのスコア分布



ミュータンス菌などの虫歯菌が多かったり唾液の性質が弱いと、歯磨きをどんなに頑張っても虫歯ができやすくなってしまいます。また、お口の性質だけでなく、飲食回数や歯磨きの状態(プラークが残っていないか)、フッ素の使用状況も関係があります。

5分間平均唾液量(ml)



正常な唾液分泌量は、5分間で6～10mlです。唾液が少ないと口の中が不快に感じられたり虫歯・歯周病が進行しやすくなります。

お口のリスク統計

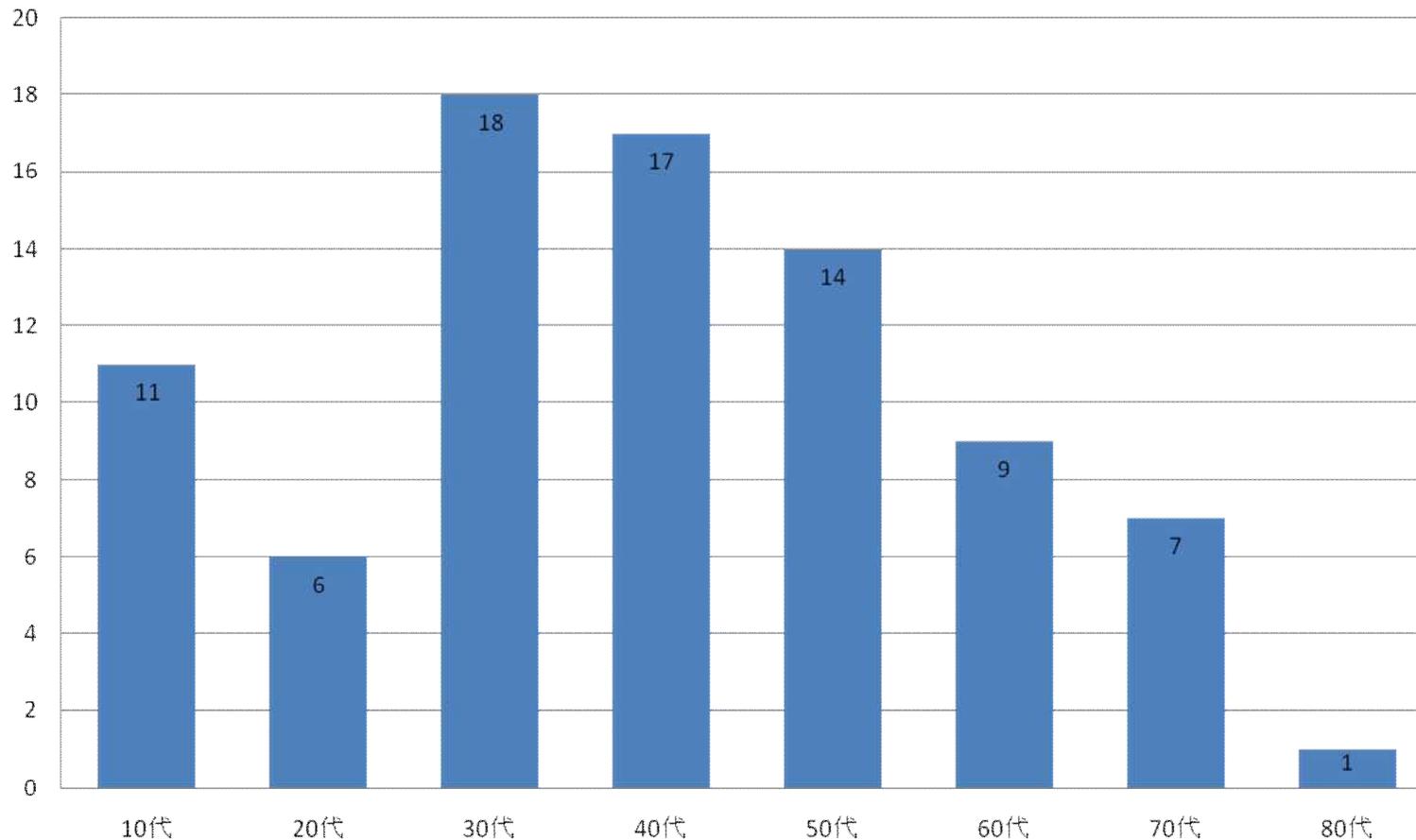
歯周病編

2007.1.1 ~ 2007.12.31初診分

生活習慣病の1つでもある歯周病。自覚症状がないことが多いのですが、30代以降ではほとんどの方がかかっていると言われています。

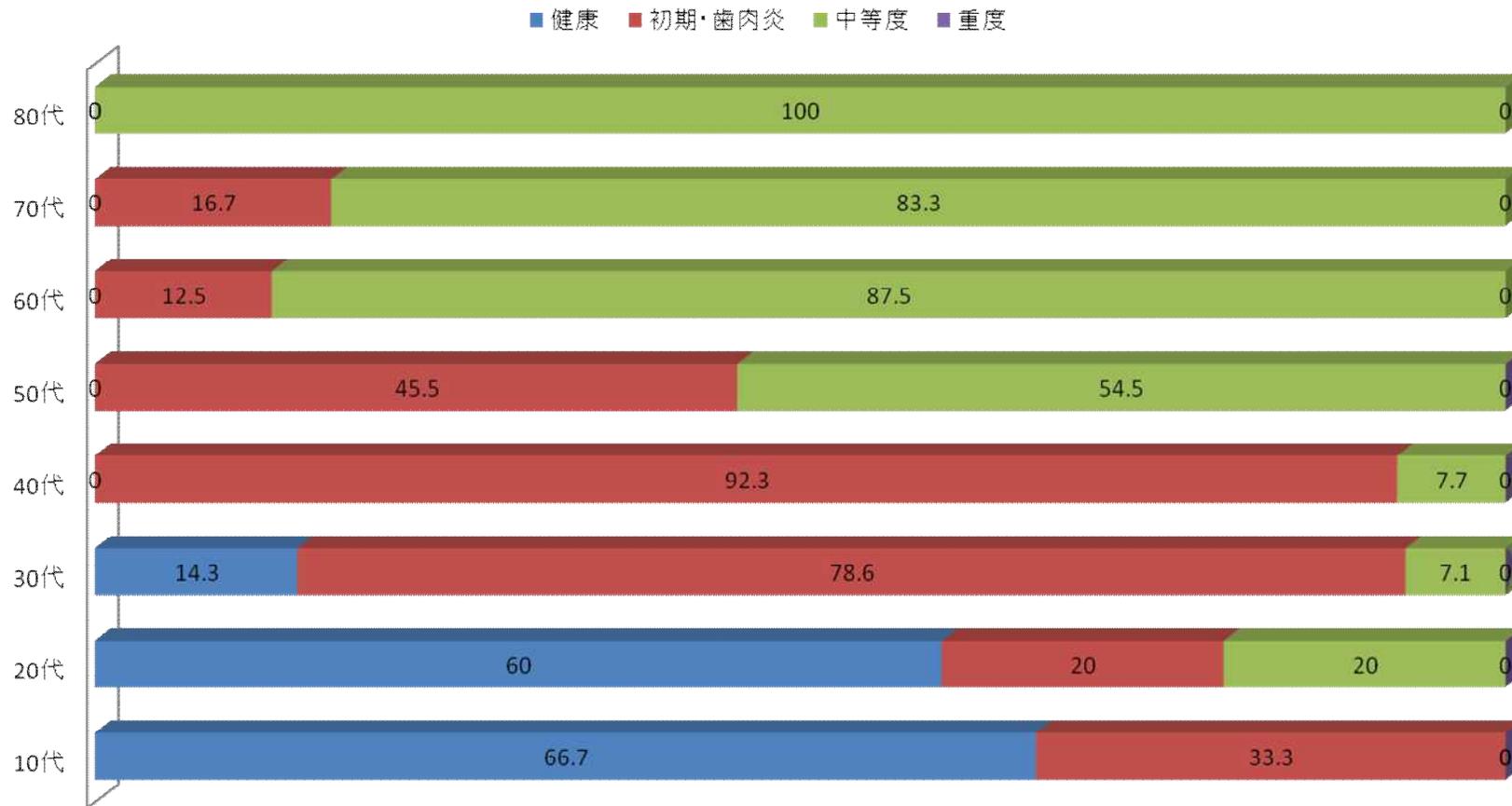
当院患者様の歯周病の状態を、歯周病検査の結果をもとにまとめました。

年代別の人数



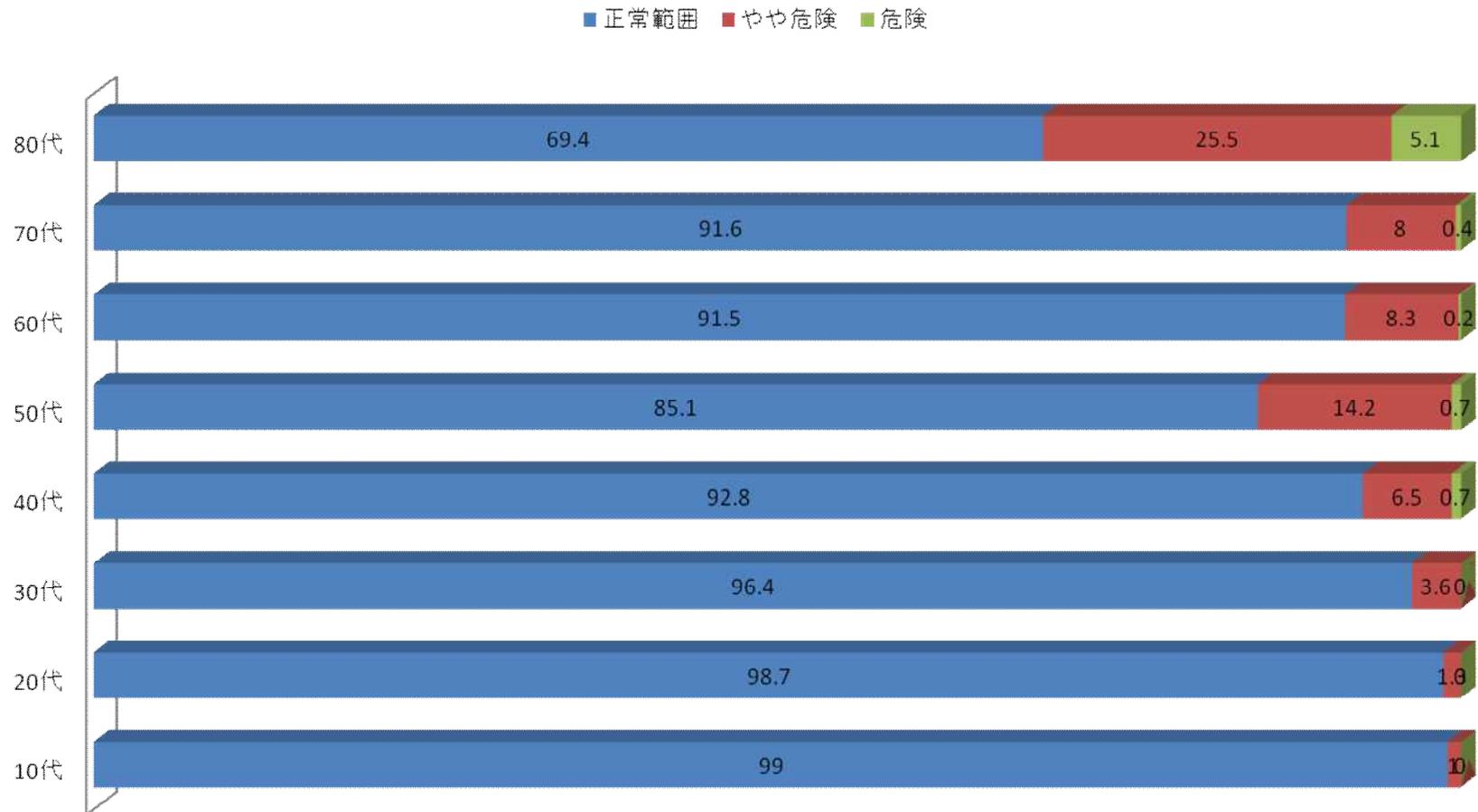
歯周病検査(歯肉の検査)を受けている方は30～50代に多いようです。
初診時とメンテナンス時を比較することで歯周病の進行度合をチェックし、現状に応じたお口の中のクリーニングを行い、歯周病の進行を予防しています。

歯周病進行度



40代以降では歯肉が健康な方は0%で、歯周病や歯肉に軽度の炎症のある方がほとんどです。みなさんは歯肉から血が出たり、歯の動揺、口臭はありませんか!?

歯周ポケットの深さ



健康な歯肉では3mm以下の歯周ポケット(歯と歯肉の間のすき間)が認められます。それ以上歯周ポケットが深いと、プラーク(歯垢)がたまって歯肉が腫れやすくなり、歯周病が進行します。歯周ポケットの奥までは歯ブラシが届かないので歯科医院でのケアが必要になります。

平均残存歯数

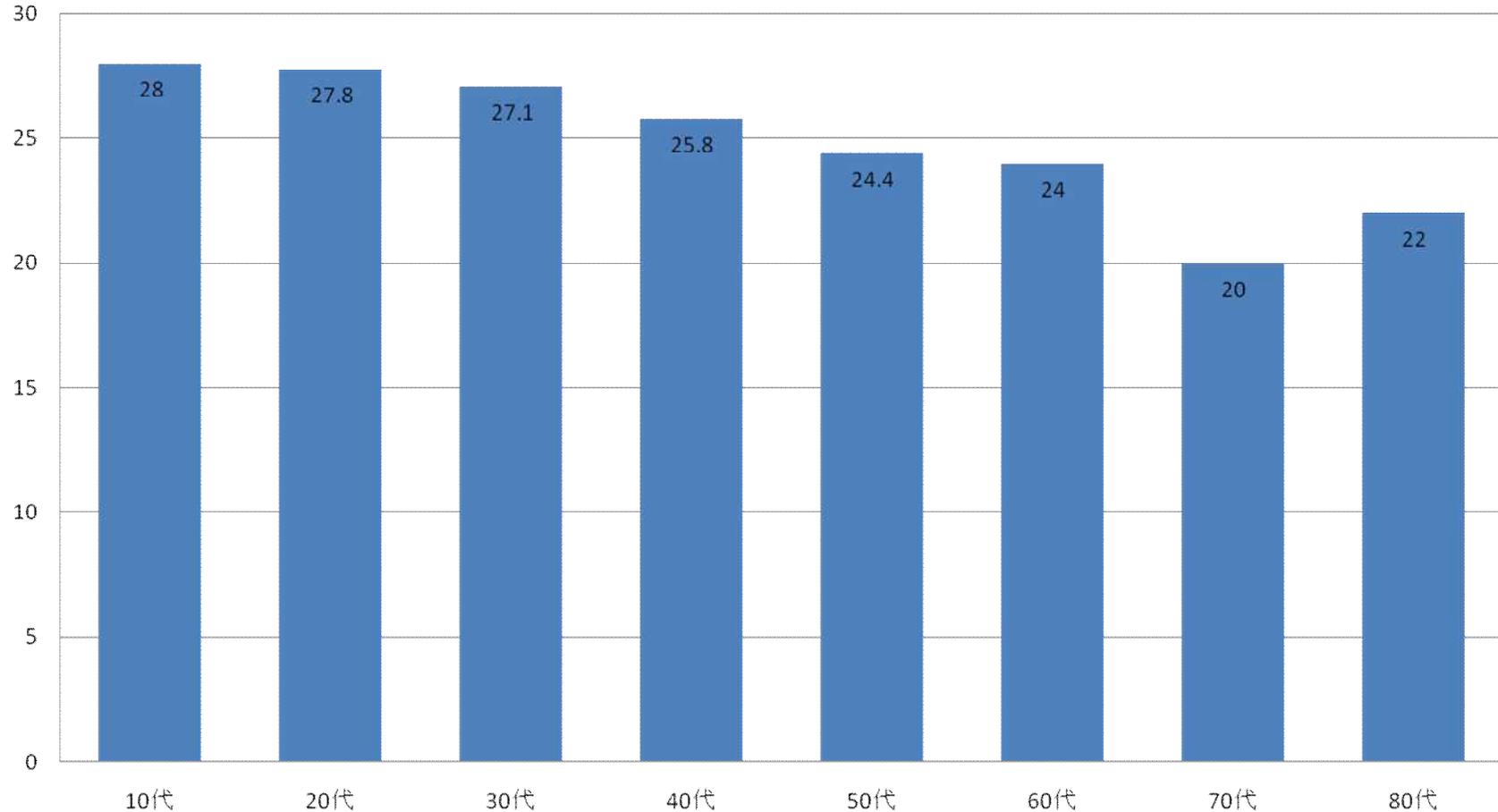
永久歯の本数は全部で28本(親知らずを除く)です。
しかし、虫歯や歯周病などにより歯を失う方が多いのが現状です。

国の政策である『健康日本21』では、80歳で20本の歯を残すことを目標としていますが、実際の達成者は5人に1人程度です。

(2005年歯科疾患実態調査より)

なぜ80歳で20本かというと、20本自分の歯が残っていれば、ほとんどの食物を噛み砕くことができるからです。

年代別平均残存歯数(本)



各世代の全国平均は、10代・・・28本、20代・・・27.5本、30代・・・27.3本、40代・・・26.2本、50代・・・23.6本、60代・・・19.5本、70代・・・12.7本、80代～・・・7.3本となっています。
(2005年歯科疾患実態調査より)

まとめ

いつもご来院ありがとうございます。

当院では、今回このような統計を初めて出してみました。

全国平均と比べて良い結果も悪い結果もありますが、

患者様みなさんがお口の健康に関心を持つきっかけになればと思っています。

今後も1年に1度発表する予定です。

当院は予防を基盤とした専門性の高い歯科医院から、その場限りの治療は行っていません。それは患者様のお口の健康・体の健康を守っていくためなのです。

しかしそのためにはみなさんの協力(自宅での歯磨きや定期的なメンテナンス)

が欠かせません！！

健康な方はそのまま健康を維持できるよう、治療が必要な方も治療後は再発しないようにしていきましょう